

入門者のための

Frequently Asked Question

FAQ

このコーナーでは、みなさんから寄せられたインターネットに関する
質問や疑問についてお答えしていきます。

日頃からわからないなあと思っている疑問、困っていることなどありましたら
どんなことでもけっこうですから質問を編集部までお寄せください。

宛先は ip-faq@impress.co.jp です。電子メールでの回答はできませんのでご了承ください。

ファイルの変換と展開についてわからないことがあります。マッキントッシュを経由してMS-DOSのアプリケーションソフト(.exeファイル)をFTPしてからPC98上で実行したいのです。以下の手順でやってみましたができません。まず、ftp.cac.washington.eduのpineのディレクトリからpppine_f.zipとpkunzip.exeをもってきました。落としたフロッピーディスクは2DDで640Kバイトのフォーマットです。ファイル名をpppine.zipに直して98のハードディスクに移し、pkunzip -d pppine.zipと入力しましたが、展開しません。MS-DOSは5.00Hです。マック上でDOS用に変換が何かするのでしょうか？マックに転送した時点でアイコンがBBEdit Lite 3.0に変わってしまいました。Mac easy openをoffにしたりしましたが効果なしでした。どうしたらいいのか教えてください。(匿名希望)

A. 原因は、どうもマッキントッシュからPC98にファイルを転送する過程ではなく、最初にマックでFTPをしたときにあるようです。FTPでは、異なるオペレーティングシステム間でファイル転送を行うために、いくつかのデータ転送モードが用意されています。たとえば、UNIXではテキストファイルの行末はCtrl-J (0x0a) 1文字ですが、MS-DOSではCtrl-M Ctrl-J (0x0c 0x0a) の2文字になっています。ですから、テキストファイルをUNIXからMS-DOSにそのまま転送すると不都合が生じることになります。そこで、テキストファイルを転送する場合には、こうした異なる部分を変換するモードが用意されているのです。通常、この転送モードをASCIIモードあるいはテキストモードと呼び、行末記号の変換などを行うようになっています。

しかし、今回転送しようとしたMS-DOSのプログラムを転送過程で変換されては困りますね。そのようなデータの転送のために

用意されているのがイメージモード、またはバイナリーモードと呼ばれる転送モードです。このモードでは、転送されたデータは何の変換もされずに受け取られます。これらのモードの指定は、原則として利用者が指定することを前提としていますので、どのようなデータを転送するのかをよく考えて事前に指定しておかなければなりません。どうも今回の質問の例では、イメージモードで転送すべきデータをASCIIモードで転送してしまったためにうまくいかなかったのではないのでしょうか？マッキントッシュでどのようなFTP用のソフトウェアを利用されたのかわかりませんが、転送モードをイメージモード(あるいはバイナリーモード)として転送するといいいでしょう。

また、マックのソフトウェアはマックのファイル形式についての知識しかない場合もありますから利用者が明示的に設定をしなければなりません。(図1、2参照)

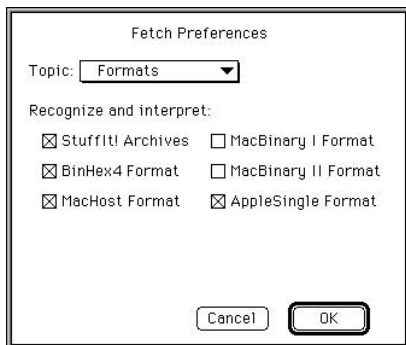


図1 マック用FTPソフトFetchの場合、PreferenceメニューのFormatsの中に、マックバイナリー形式にするかどうかのチェックボックスがある。他機種のプログラムの場合、これをオフにする。



図2 図1の設定をしない場合でも、ファイルをブットするときのダイアログでFormatを指定するポップアップメニューがあるので、ここでマックバイナリーではなく、Raw data形式を選ぶ。

回答者 砂原秀樹

奈良先端科学技術大学院大学
情報科学センター助教授
WIDEプロジェクト・ボードメンバー。
日本でのインターネット普及のために
研究と後輩の指導に努めている。

WWW サーバーを立ち上げたいのですが、XXXX.co.jpではなく、XXXX.comという海外のドメインをとりたいと思っています。これは、海外に在住していないとれないのでしょうか。ゆくゆくは海外でビジネスをしたいので、comのほうがいいのではないかと考えています。

(小山賢三さん)

A ■ 最近、朝日新聞社のwww.asahi.comなど、回線料金や管理ノウハウなどの理由から日本向けの情報が海外のサーバーに置かれているケースが見られるようになってきました。

XXXX.comというドメイン名は、米国およびカナダにある営利組織を示すもので、現在、InterNICによって管理されています。asahi.comなどの例からわかるように、必ずしも海外に「在住」している必要はないようです(ftp://rs.internic.net/policy/internic/internic-domain-4.txtを参照するとよいでしょう)。

しかし、ちょっと待ってください。海外でビジネスをするからといって、本当にXXXX.comというドメイン名が必要ですか？ かつて、IPアドレスの割り当てにクラスA、クラスB、クラスCという区別があった時代に、クラスAのほうがクラスCよりも「エライ」と誤解されていたことがあったのと同様のことだと思います。XXXX.comというドメイン名を持っていると「かっこいい」とか「エライ」とか思っていないですか？ これは単なる思い込みにすぎません。当然、実際に海外に本拠を置く

会社を設立するならば別ですが、日本の会社がXXXX.comというドメイン名を持たなければならない理由はまったくありませんし、それによってインターネット内での扱いが変わることはないのです。ネットワーク管理上のやり取りをアメリカを前提に行わなければならないなど、逆に不利かもしれません。XXXX.comというドメイン名は単に北米地区にあるドメイン名にすぎません。みょうな先入観はまず捨てるべきでしょう。

設置費などの理由から日本向けの情報を格納したWWWのサーバーなどを海外に設置する組織が増えそうな気配ですが、僕は、これは決して日本のインターネットにいいことではないと考えています。この傾向は、もっともコストの高い国際回線を圧迫し、日本のインターネットに関わる費用(料金)を高くする要因となるのですから。

インターネットでよく出てくるNOC(ノック)とアクセスポイントはどう違うのでしょうか。同じなのでしょう。また、その場所には何があるのですか？ モデムとコンピュータなのですか。人間はいるのですか。

(原田弘恵)

A ■ 言葉の意味からすると違うものなのですが、最近、どうも混同されて使われることが多くなっているようです。NOCは、Network Operation Center(ネットワークオペレーションセンター)ですから、ネットワークの運用・管理をする場所のことを指します。たとえば、大学や会社

の中で組織内ネットワークを管理運用している制御室のようなところがNOCに当たるわけです。インターロップなどのイベントでもNOCが用意されており、ここから展示会場内のネットワークを管理しているわけです。

これに対して、アクセスポイント(AP)はネットワークを利用する人に対してネットワークへの接続サービスを行うところということになります。つまり、パソコン通信などでモデムから電話をかける先がアクセスポイントなのです。

しかし、インターネットのように広域にわたるネットワークの運用では、ネットワーク管理の拠点とネットワークへ参加者のために用意するアクセスポイントを別々に設置することはなかなか困難です。そのため、NOCがアクセスポイントとしての役割を果たすことが多く、混同されるようになってきたのだと思います。要するに、管理者から見ればNOC、利用者から見ればアクセスポイントといった考え方をすればいいのだと思います。ちなみに、現在のインターネットにおいても、アクセスポイントとしての機能を持たないNOCがあったり、アクセスポイントとしてのみ機能する設備もあります。

NOC、APともに、ルーターや制御用のコンピュータ、モデムやTA(ISDNの接続装置)、CSU(専用回線の接続装置)などの装置が置かれています。また、通常NOCには人が配置されていることが多いようですが、APだけの機能を持つ設備には常時人が配置されていることはあまりないようです。

ネッスケーブでニュースグループの記事を読めると聞いたのですが、どうすればできるのですか。もし、できるとすれば、ネッスケーブ用に出ている翻訳ソフトを使って読めるのではないかと期待しています。

(飯山谷男)

A ■ 翻訳ソフトが利用できるかどうかはよくわかりませんが、ネットニュースの記事を読むことは非常に簡単です。通常なにげなく書いているURLには、WWWのアクセスプロトコルだけでなく、FTPやGopherといったプロトコルも利用できるようになっていますね。つまり、ここにnewsと書いてしまえばいいのです。つまり、

news://ニュースサーバー名というURLを指定すると、ネットニュースを読むことができるようになります。ここでニュースサーバーとは、組織内やインターネットサービスプロバイダーが用意したNet-Newsのメッセージを格納しているサーバーのことを指します。基本的にアクセスできるユーザーを限定していますから、自分にアクセス権があるサーバーを指定するようにしてください。ダイヤルアップIP接続の場合、最初にサービスプロバイダーが提供してくれる情報の中に含まれているはずですが、

ネッスケーブの場合（基本的に2.0beta3について説明しますが、他のバージョンでも細かな画面は違いますが、同様に利用できるはずですが）、Newsウィンドウと

呼ばれるウィンドウが新たに開かれ、そこでニュースの読み書きをすることになります。

ウィンドウは3分割されており、左上にサーバー名とニュースグループ名が、そこでニュースグループを選択すると、右上に到着しているメッセージのリストが表示されます。そしてメッセージを選択すると、下にメッセージの内容が表示されるわけですね（図3）

ところで、ほとんどの場合、ニュースサーバー名は毎回変更されるわけではないので、ネッスケーブに登録しておいたほうが便利です。そこで、まず、「Options」メニューの「Mail and News Preferences」を選択してください。この中に「Servers」という設定項目がありますから、この「News (NNTP) Server」に、先ほどの

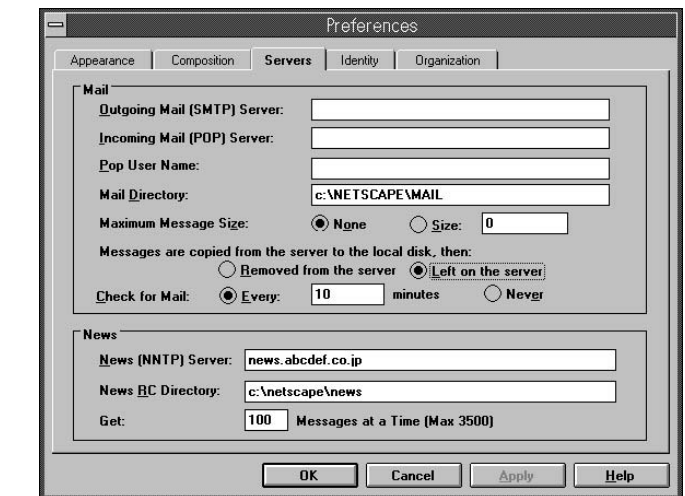
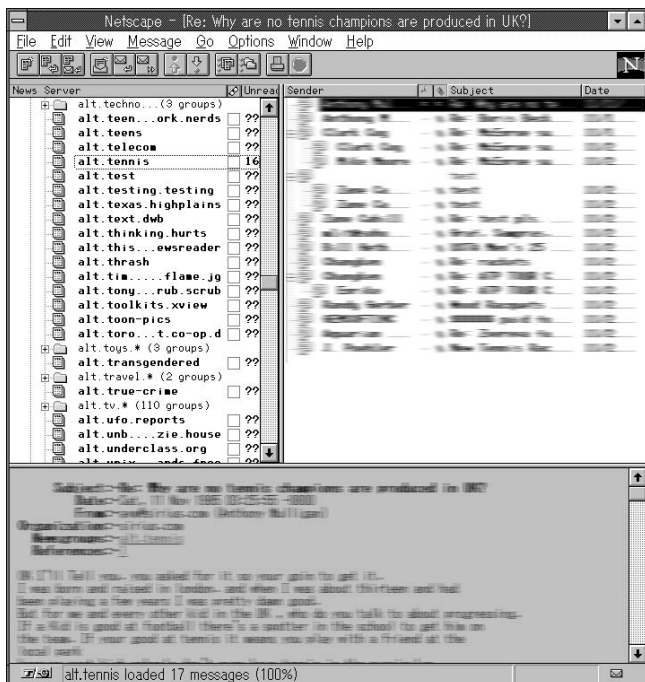


図4 Mail and News Preferencesでニュースサーバーを設定

図3 ネッスケーブ2.0beta3のNewsウィンドウでネットニュースを読む

入門者のための FAQ

ニュースサーバー名を設定するのです(図4)。次に「Windows」メニューの「Netscape News」というメニューを選択すると、先ほどのNewsウィンドウがオープンします。なお、2.0beta3ではバグがあるのか、購読(Subscribe)しているネットニュースグループなどを管理するファイルnewsrscの設定が自動では正しく設定されないようです。先ほどニュースサーバー名を指定したすぐ下にある「News RC Directory」で指定されたディレクトリに置かれたファイル(ファイル名はfat)を図5のように変更しておいてください。

ところで、何も設定しない状態だと最初に購読すると設定されているニュースグループは、図6の3つだけですので、興味に応じて自分が読みたいニュースグループを指定したくなってくると思います。ニュースグループ名がわかっている場合には、URLとしてnews://ニュースサーバー名/ニュースグループ名と指定すれば、Newsウィンドウが現れ、右

上のサブウィンドウに指定したニュースグループ名が現れるはずですが、あとは、通常の手順でメッセージを読むことができます。

また、このニュースグループを購読する場合には、右上のサブウィンドウに表示されている「めがね」のアイコンの列(指定したニュースグループが購読されていない場合は単なる「?」になっているはず)をクリックすると、そこに「めがね」アイコンが表示されます(図6)。これで、購読するニュースグループとして登録され、次回Newsウィンドウを表示したときに自動的に新しく到着したメッセージがあるか否かを調べるように設定されます。

どのようなニュースグループがあるのかわからない場合には、「Options」メニューから「Show All Newsgroups」を選択します。すると、Newsウィンドウの右上にニュースサーバーに格納されているすべてのニュースグループが表示されますので、その中から購読したいニュースグループを選択し、

「めがね」アイコンを設定すればいいのです。

この操作をすると、ニュースサーバーに現在格納されているすべてのニュースグループのリストを取得しにいきます。現在9000以上ものニュースグループが日本にやってきています。ダイヤルアップIP接続などでアクセスしている場合には数分かかる場合もありますから注意してください。

さらに、ネットニュースのメッセージ中に下線つき青文字で表示されるものはLinkとして扱われますので、これでニュースグループを指定することもできます。

なお、ネットスケープは、ネットニュースを読むだけでなく、投稿をすることもできます。また、メールの授受も可能です。これらの設定はすべて「Options」メニューの「Mail and News Preferences」で指定することができますので、積極的に利用するといいでしょう。

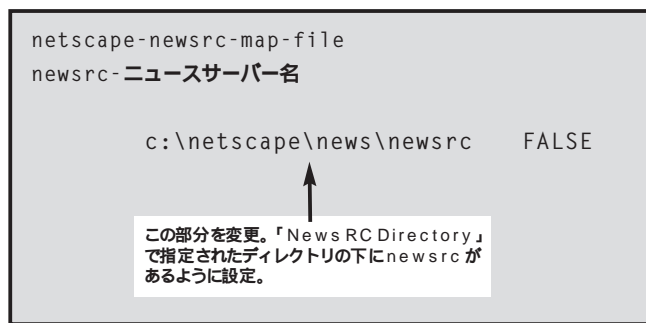


図5 fatファイルの変更

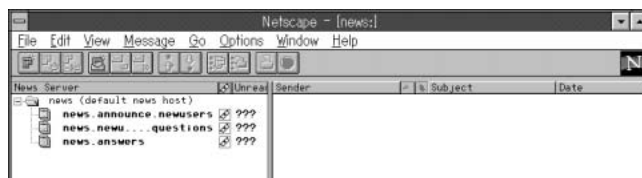


図6 あらかじめ設定しているニュースサーバー

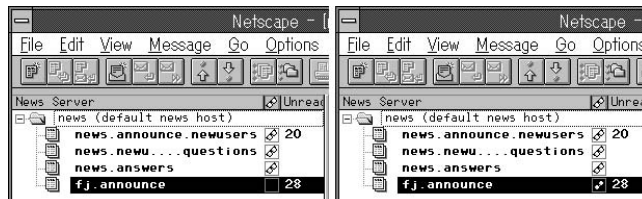


図7 購読するサーバー名をクリックすると(左図)がめがねアイコン(右図)に変わり、新着メッセージを読めるようになる。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp